

小中一貫教育推進計画

牧之原小学校・牧之原中学校の小中一貫教育の充実を図るため、牧之原小中学校学校運営協議会から提出された意見書を基に、その方針や具体的な施策等について令和7年度から令和12年度の6年間の計画を定めました。

基本方針



小学校と中学校の校舎がつながった“施設一体型*1”の小中一貫校として、令和10年度の開校を目指します。

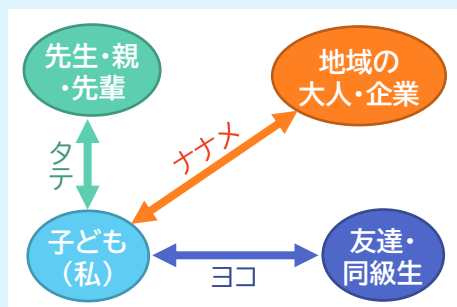
【方針】

*1 小学校と中学校が同じ校舎で学ぶことができる施設のこと（渡り廊下等でつながっているものも含む）

キャリア教育を軸とした小中一貫教育を充実させることで、教育の質を向上させ、子どもたちに次代を切り拓く力を育みます。

【方向性】

子どもたちが広い視野を持ち、主体的で充実した9年間の学びができるよう、「ヨコ」の関係だけでなく、「タテ」と「ナナメ*2」の関係を充実させるものとします。



*2 近所や地域の企業を含めた大人との関係

- ・「タテ」の関係が6年から9年に伸びることで、より幅広い年代の子どもたちが関わることができるようになります。
- ・「ナナメ」の関係が充実することにより、多くの人と関わる機会や、成長段階に応じたチャレンジができる機会を充実できるようになります。

「タテ」の関係と「ナナメ」の関係が充実することで、単学級である「ヨコ」の関係によい影響をもたらすことができるようにしていきます。

【学校の形態】

開校当初は小中一貫校としますが、適切な時期に義務教育学校に移行することを想定し、教育活動を行うものとします。

～小中一貫校としての開校を目指す理由～

牧之原小中学校の施設が隣接している利点を生かし、校舎をつなげることで小中一貫教育を行いやすい環境を作ることができます。

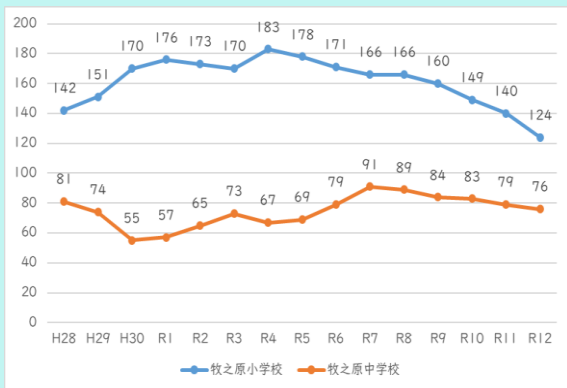
義務教育学校として開校するためには、校名や校歌、校章を決めなければならないなど、協議検討に長期間を要することから、子どもたちが早期により良い環境で教育を受けることができるよう、まずは小中一貫校から始めたいと考えました。そして、子どもたちや教職員が環境に慣れ、教育活動が充実した段階で義務教育学校へ移行することを計画しています。

小中一貫校や義務教育学校は、9年間の一貫した教育課程を編成するという面ではこれまでの学校とは異なりますが、教育方針そのものが大きく変わることはないため、子どもたちは落ち着いて教育を受けることができます。

現状

牧之原小中学校区の子どもの人数

児童生徒数の推移及び推計とも児童生徒数は微減となっており、令和12年度まで極端な減少はないことを見込んでいます。



※R8以降は、静岡県「令和8年度以降の児童生徒数・学級数調」による

施設の状況

牧之原小学校と中学校は、屋外のグリーンロードを通り上靴のまま行き来することができ、グラウンドも共用で使用しています。

教育活動等の状況

隣接する牧之原保育園も含め、保・小・中の連携した教育活動を実施しています。

キャリア教育

郷に学び自ら行動を起こす人を育てる教育である「起郷家教育」を実施しています。人との交流、協働などを通して、これからの時代に必要な資質・能力を育てています。

小中連携事業

学校教育目標の一本化、授業の乗り入れの拡充などに取り組んでいます。

幼児教育との接続

小学校入学時の環境変化による負担に配慮し、幼児教育と小中学校教育の無理のない接続を実現するために連携しています。

地域との連携

学校運営協議会と地域学校協働活動を両輪とした一体的なコミュニティ・スクールを実施しています。



学校の種類による違い

牧之原小学校・中学校が目指す小中一貫校では、9年間の一貫した教育課程を編成し、小中学校の教員が同じ空間で業務ができる空間や、1人の校長が小中学校を統括できる体制を整えます。

また、これまでどおり小学校1年生と中学校1年生で入学式、小学校6年生と中学校3年生で卒業式があり、学校名、校歌、校章などは変更ありません。

項目	小学校と中学校	小中一貫校	義務教育学校
法的位置付け	別の学校種	別の学校種で一体的に運営可能	新しい学校種で、9年間を1つとした学校
学年構成	小学校1～6年 中学校1～3年	小学校1～6年 中学校1～3年	1～9年
校長	小・中学校それぞれ1人ずつ	小・中学校それぞれ1人ずつ(兼務可)	1人
教職員組織	小・中学校で別の組織	小・中学校で別の組織	1つの組織
教育課程	小・中学校でそれぞれの教育課程	小・中学校でそれぞれの教育課程だが、申請により9年間の一貫した教育課程を作成可能	9年間の一貫した教育課程
卒業・入学	小学校・中学校でそれぞれ執り行う	小学校・中学校でそれぞれ執り行う	1年生で入学式、9年生で卒業式だが、6年生、7年生は卒業式や入学式の代替行事がある

1 9年間の系統的・連続的な学び

成長に応じた学年段階の区切りを設定し、9年間のカリキュラムを作成します。

- ・修業年限は、通常の小学校及び中学校と同じ6年・3年です。
- ・9年間を通じた授業や、小中学生と一緒に行事を行うことなどができるようにします。
- ・教室に入ることが難しい子どもについて、校内に安心できる居場所をつくります。
- ・就学前の子どもたちが、小学校の生活に円滑に移行できるようにします。



2 地域や世界とつながる多様な体験活動

地域とのリアルな体験や、オンラインで世界とつながる機会をつくります。

- ・異学年や市内の学校との積極的な交流、地域住民や地元企業との体験学習など、牧之原小中学校ならではの交流の機会を提供できるようにします。
- ・オンラインを積極的に活用し、国内外の学校や専門家などとの交流や学ぶ機会をつくります。
- ・小中一貫校に向けて、子どもたちの学びに関わる地域の人を増やし、学校運営協議会が教育課程についてしっかり議論できるようにしていきます。



3 教職員等の組織体制

9年間の学びや育ちが共有でき、一貫した指導ができる環境をつくります。

- ・1人の校長が小中学校を統括できる体制とします。
- ・小中学校の教職員が同じ空間で業務を行うことができる環境を、可能な限り整備します。
- ・PTA組織等の学校の各種組織の統合についても、学校や各組織において検討します。



4 学びやすい教育環境の整備

現在の校舎を活用した施設一体型の校舎とし、通学方法についても検討します。

- ・両校舎をつなぐ渡り廊下の設置について、つなげる場所や施工方法なども含めて検討します。
- ・学年段階の区切りに応じた教室配置や、施設の共用利用などの工夫により、教育活動を充実させます。
- ・丸尾原方面の通学方法について、開校までに改善できるよう、菊川市のコミュニティバスの利用なども含めて、菊川市とともに検討します。
- ・一方通行や歩車道分離などの運用の工夫により、送迎時の安全を確保します。



～子どもたちが楽しく充実して過ごせるために～

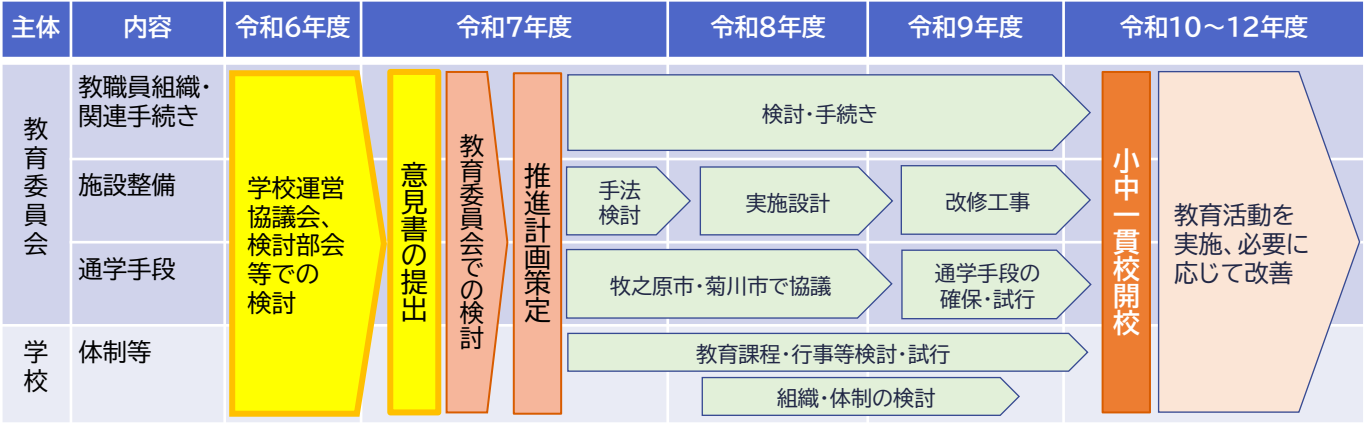
子どもたちが笑顔で楽しく通う学校にしたいと考えています。

個性を大切に、今まで通り家庭とも連携しながら、地域と共に子どもたちの学びや育ちを支援していきます。

また、一つの学校に1年生から9年生までの教員がいることで、子どもと関わる教員の人数も増え、より多くの人が子どもの成長に関わるようになり、手厚い支援や指導の中で成長を見守ることができるようになります。

スケジュール（状況に応じて変更する場合があります。）

小中一貫教育を充実するための具体策については、牧之原小中学校学校運営協議会や、校長、園長、自治会及び保護者代表者等で構成された検討組織（検討部会）にて検討が重ねられてきました。牧之原市菊川市学校組合教育委員会は、同協議会から提出された「意見書」を基に策定した「推進計画」に基づき、必要となる体制や施設の整備などを実施していきます。



Q&A

・他ではできないような経験を通して大きく成長してほしい

乗り入れ授業の充実と牧之原らしい体験ができる教育課程としたいと考えています。学校運営協議会の皆さんと共に議論し、地域の人材活用なども含め、牧之原小中学校ならではの教育活動を展開していきます。

・施設をつなげることによる違いを教えてほしい

渡り廊下等で両校舎をつなげ、施設一体型の校舎とすることで、今以上に子どもや教職員が移動しやすく、交流しやすい環境を整えます。接続場所や方法などについては、比較検討を行い、総合的に判断し決定します。

・一貫校であっても、年齢に合った社会性の育成を図ってほしい

発達段階に応じた教育活動を実施するため、年齢の特性に応じた教育を推進します。また、1年生から9年生までの積極的な交流によって、学校全体の協力し合える体制づくりを目指していきます。

・小中の乗り入れ授業や地域との交流を更に進めてほしい

乗り入れ授業の対象教科や学年を増やし、小中一貫教育を更に充実していきます。地域との交流については、学校運営協議会のみなさんと教育課程を協議し、今まで以上に地域との連携に力を入れ、さまざまな体験活動を通して実践していきます。

詳しくは、牧之原市ホームページより「牧之原市菊川市学校組合 小中一貫教育推進計画を策定しました」をご覧ください。

※右記のQRコードからご覧いただけます。

